

# 令和5年度福島県立湖南高等学校第4回学校運営協議会 議 事 録

❖ 日時 令和5年12月6日(水) 14:35~15:55

❖ 場所 湖南高等学校 図書室

❖ 参加者

委員(敬称略・順不同)

小山 伝一郎、佐藤 忠男、満田 仁一、片平 力也、山口 正国、和田 祐樹、薄 良枝、  
野口 智行

(欠席:石田 慶仁、大内 紀男、鈴木 勝美、桑名 秀一郎)

オブザーバー

伊藤 篤史

事務局

菊池 由喜男、会田 房男、森 修、高柴 有一、渡部 実和子

(授業:熊田 厚志、五十嵐 稜)

❖ 内容

1 開会のことば 菊池教頭

2 会長あいさつ

皆さん御苦勞様でございます。今年度の協議会は残すところあと一回となります。

色々話し合ってきましたが、その成果としていろんな動きが出てきており、一緒に歩いていけることに、やってきてよかったと感慨深い思いです。先日、新聞にも皆さんの頑張っている姿を見つけました。郡山市と連携している記事も掲載され、湖南高校として注目され、繋がりが認識されてきているように感じます。今後も我々が少しでも役立っていければ幸いに思います。

3 校長あいさつ

本日は伊藤様にもオブザーバーとして御参加いただき、ありがとうございます。

まず進路の進捗状況ですが、見事全員内定と合格をいただきました。地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、新たな試みとして、11月16日に授業公開・学校説明会を実施しました。市内の各中学校の先生方に授業見学していただきました。「授業が大変丁寧で細やか。」「中学生時代と比較して成長している様子が見られた」等、お褒めの言葉をいただき、本校の良さを感じてもらい機会となりました。これらの活動を募集に生かしていきたいと思います。今後、新たなPR方法等がありましたら御意見をください。

その他、前回の協議会から2か月が経過しておりますので資料を見ていただけたらと思います。雪灯籠の実行委員も決まりました。実際の中身は生徒が主体となって進めていく予定です。高校生なりの考え方をベースにしつつ、バックアップを協議委員の皆様をお願いいた

します。

最後にそばの収穫祭について、お時間許す限り御参加いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

#### 4 学校からの報告事項 議長 小山会長

##### (1) 第3回学校運営協議会議事録 菊地教頭

※資料P4～P6参照

##### (2) コミュニティスクールとしての取組

※資料P7～P13参照

##### (3) 湖南雪灯籠まつり（仮）実施計画（案）について

※資料P14～P15参照

- ・城北埼玉2/8～9に来校予定なので共同で作成したい。

##### (4) その他

- ・12/9のイベント「ふくにじマルシェ」にボート部が参加し、蕎麦プロジェクトからは、mogumoguさんとのコラボケーキを販売する予定。
- ・12/10福島大学和田さんのゼミ、湖南の魅力をお話しいただく予定。

→和田氏：各種行事のスクラップ&ビルドについて。委員の意見もだが、教育効果として何を狙っているのかをベースにして、まずは先生方の方で案を提示してほしい。先生方の負担も協議委員の方からは見えないので、先生方の案を示したうえで、相談していただきたい。地域としても学校がやっていきたいことを応援していきたい。

#### 5 協議

##### (1) ルーブリックについて

※資料P16～P17参照

- 和田氏
- ・ルーブリックを見るときベースが変化してきている。今まで学校の先生が評価していたが、これからは地域と生徒自身が、自分がどれだけ到達しているか確認するためのものになっていく。
  - ・内容としては抽象的になりすぎても具体的になりすぎてもよくない。今回の資料を見る限り、湖南高校によく合ったものとなっているように感じる。ただ、広い視野でバランスよく作成するために、なるべく多くの人たちで作成することが望ましい。生徒たちも加えて作成していくのもよい。
  - ・地域の課題を知ることについては統計等で知ることができるが、地域の魅力については、直接情報に触れる必要がある。経験値は学習に勝る。情報に触れ、経験することが大切。外に出る機会を増やし、生徒や先生たちが情報に触れる。そのような部分がルーブリックの指標に反映されるとよい。
  - ・他校のルーブリックと比較したい。可能であれば協議会の資料として出して

もらえると、協議委員もコメントしやすくなる。

- ・将来的に受験生も確認できるものになると、学校が求める人物像が伝わる。大学と違って高校は偏差値だけで学校を選ぶ子も多い。偏差値ではない部分をループリックで示していけたらよいのでは。
- ・自分がSと思えばいいというわけではなく、AやBの人が学校にいる間にとのくらい伸びるか、伸びたいと思えるか、そのきっかけとすることが大切。

## (2) 学校、地域の魅力化について

和田氏 伊藤さんから見て、学生の持っている価値や魅力、街にとって学生の存在の「ここがいい」というものがあれば教えてほしい。

伊藤氏 学生の価値というよりは、むしろ自分たち側が気をつけなければいけないことがあって、いつのまにか学生を「人手」として扱ってしまわないようにしなければならない。それは相手にも伝わるし、お互いの関係性としてもよくない。人手ではなく当事者として感じてもらうようにすることで、自主性もでてくる。

和田氏 当事者意識を引き出すために気をつけていることはあるか。

伊藤氏 難しい言葉を使わない。いい意味で隙を作っていく。

わざとではないけど、大人側がミスを見せていく。

プロジェクトが大層になればなるほど、プロジェクトリーダーはすごいものを感じるが、たいしたことない場合も多い。それに気づくことで言われるままではなく、自発性が生まれていく。

和田氏 湖南高校生の地域への参加は、生徒の主体性や気持ちを大切にしているように感じる。

和田氏 短大とはどのような取組を？

伊藤氏 街全体を写真館にする取組を行った。各飲食店に写真を置かせていただいたり、料理の提供と一緒に写真を添えていただいたり…。企画書はこちらで作成し、学生たちに交渉を依頼した。ただ交渉がうまくいった人もいれば全敗してくる子もいて、成功体験と失敗体験のギャップが激しかった。反省として、置く置かないの交渉はこちらでやって、置く場所の交渉だけ学生にお願いすればよかったと感じている。成功体験への動線を用意した上で、学生を企画に参加させることが大切。

和田氏 雪灯籠についてP15の制作例はそれぞれ大きな違いがある。どれをイメージするのか、なるべくはっきりとしたイメージを生徒に持たせることが大切。目的目標も大切だが、一番はわくわくが勝ってほしい。理想としたい形を思い描く時間を取ってあげた方がいい。

満田氏 雪灯籠を置く場所として、14ページに民家の軒先とあるが、これはなかなか難しい。場所を明確にしておくとうい。「かまくら」つくりたいという案が出たとしても、それを作成することが可能な場所になるかどうかわからなければ

ば話が進まない。

会 長 元製材所跡の空き地などが候補として挙げられる。

まず初年度は学校周辺の中で取り組んで、来年度は少し広げられるようにして行くのが良いのでは。

伊藤氏 先のことを考えるのだったら、しっかり町の文脈があるところに作るとよい。そうでないとなぜこんなところに作ったのかという話になる。

例：昔この道に江戸に行く人のあかりとして灯籠があった

磐梯山と雪灯籠が一緒になり冬の幻想的な景色が見られるスポット …等やれる場所やれない場所の前に、しっかりと町の文脈がある場所を探すことが大切。

和田氏 高校生に夢をつくってもらう。それを我々がどう叶えていくか。

難しい案が生徒から出た時に、それはできないで終わるのではなく、工夫して実現する方法を探すことが大切。生徒も案を出したかいがある。

薄 氏 まずは千手観音や中庭、校庭、郵便局のところの神社など近い所から始めるとよいのでは。あとは除雪の問題をどうするか。

和田氏 雪灯籠イベントを開催している他の地域の人たちが、どのように除雪車と折り合いをつけているのか調べてみるとよい。

または除雪されることを逆手にとって、「この三日間限定！」とした方が見に来る人もいるかも。

伊藤氏 雪灯籠はどこでもやっているが、「この町ならでは」の部分で言うなら、湖と磐梯山のセットが見られる浜に雪灯籠を立てるのもよいのでは。

小山氏 白鳥ともコラボ可能。

薄 氏 浜であれば除雪される心配もない。

総 括：町としての文脈を考えることがまず大切。

## 6 その他

## 7 閉会のことば 菊池教頭

### ※諸連絡

次回、第5回は2月7日（水）

（15：55終了）